

京都における音楽文化の振興に関する調査研究Ⅱ(2nd Stage)

京都を「舞台」にした
多様な「音楽コミュニティ」の創出に向けて

平成 27 年 2 月

京都市会議員 大道義知

— 目 次 —

はじめに	1
1 屋外音楽文化施設の現状	2
2 京都の合唱活動の歴史	7
3 音楽文化の国際交流等への活用	13
4 多様な「音楽コミュニティ」創出に向けての提言	22
[資料編] ヒアリング調査記録	27

はじめに

本報告書は、昨年度に引き続き、京都市が名実ともに「音楽文化都市」として自立していくための要件について調査研究した成果を取りまとめたものです。

昨年度は調査研究の「1st Stage」として、文化芸術都市・京都市の将来において音楽文化が果たす創造的役割について総合的に考察しました。その結果を報告書『京都を「舞台」にした多様な「音楽コミュニティ」の創出』として取りまとめ、各方面にお届けしたところ、思いのほか反響があり、京都をもっと音楽があふれるまちにしたいという「音楽コミュニティ」構想に賛同する方が多いことを知りました。構想をふくらませ、さらに豊かなものにするアイデアもお寄せいただきました。

今年度は、そうしたご提言も活かし、昨年度調査から課題として残されていた個別テーマについて、有識者へのヒアリング調査と文献・ウェブ調査から構想を補いました。個別テーマとは、京都市における音楽文化施設のうち特に野外音楽堂等屋外施設の現状や、「音楽文化都市」に欠かせない、学生のまちに起因し長い歴史を誇る合唱活動の位置付け、音楽を通じた姉妹都市交流等国际交流の近年の動きを踏まえるといったことです。

昨年度提案した構想の基本的な考え方を継承しながら、それらの調査研究の結果を踏まえ、多様な「音楽コミュニティ」を創出し、京都のまちじゅうが「舞台」、まち全体が「舞台」であるような「音楽文化都市」を実現していく具体的方策「2nd Stage」を、再度世に問うことにします。

ヒアリング調査は、岩井公子氏(京都府合唱連盟理事，京都少年少女合唱連盟役員)，小松正史氏(京都精華大学人文学部教授)，吉田眞澄氏(弁護士，元帯広畜産大学理事・副学長)のお三方に対して行い，快く応じていただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

京都市会議員 大道 義知

1 屋外音楽文化施設の現状

京都市内には、京都コンサートホール、ロームシアター京都という二大音楽ホールのほか、5つの地域文化会館、また京都府立文化芸術会館や大学、民間のホール施設がいくつかあります。こうした屋内の「舞台」である音楽ホールとは別に、野外音楽堂等の屋外の「舞台」、音楽文化施設があります。「京都のまちじゅうが舞台」という本構想のイメージからは、野外音楽堂の存在が気にかかるところであり、初めにその現状について概観します。

4つの野外音楽堂

京都市には現在、野外音楽堂・野外ステージが、円山公園音楽堂、梅小路公園野外ステージ、船岡山公園野外ステージ、山村都市交流の森 森林文化交流センターの多目的ホール付帯施設屋外ステージの4つがあります。うち円山公園音楽堂は約3,000の固定席のある「本格的な」野外音楽堂で、都市公園（「特殊公園」）の中にあって都市公園法では「都市公園の効用を全うするための」公園施設と位置づけられています。

梅小路公園（「総合公園」）芝生広場西側の野外ステージも同様の位置づけです。野外ステージは下京区制130周年記念事業として整備された文化芸術活動の場という位置付けがされており、京都水族館や新しい（仮称）京都鉄道博物館との相乗効果が期待されています。2007（平成19）年以来「京都音楽博覧会」という野外フェスティバルが毎年開催され、それなりの商業的利用もなされています。JR新駅も予定され、立地も良いことから今後ますます活用されると予想されます。

船岡山公園は、建勲神社に隣接する標高112メートルの船岡山の西北部にあたる公園で、頂上からの市街地の眺望が抜群の観光スポットです。雑木林の中に遊歩道が整備されており、「観光スポット」というより近隣住民の散策スポットとなっています。しかし、一定の標高もあることから野外ステージはあまり活用されていないようです。

山村都市交流の森の屋外ステージは、左京区花背にある京都市森林文化交流センターの中の多目的ホールの付帯施設です。「京都市における林業及び木材製造業等の振興並びに山村の活性化に資するため、森林文化に対する市民の理解を深める活動及びその他の活動の用に供すること」が設置目的となっており、この趣旨に添った、郊外にふさわしいイベントやレクリエーションのための施設であることから、本構想の趣旨からは少し外れると思われる。

文化財的価値を持つ円山公園音楽堂

全国の野外音楽堂等の施設は、政令都市に限って言えば、「ホールラッシュ」と呼ばれた文化施設建設ラッシュの時期、1990年代までにそのほとんどが整備され、2000年代に入ってから近年のものは限られています。京都市は、他の政令都市と比較すると数量的に多いほうではありませんが、中でも円山公園音楽堂は1927(昭和2)年に開設され、政令都市の中では最も歴史のある文化財的価値を持つ施設の1つとなっています。条例は「音楽の公演その他の文化的な催物及び集会の用に供するための施設」という目的を掲げています。

先に「京都音楽博覧会」について触れましたが、近年、大学生や若者の間で野外の音楽フェスティバルが静かなブームとなっています。火をつけたのは1997(平成9)年に始まった「フジロックフェスティバル」と言われ、現在は新潟県の苗場スキー場で開催される大イベントです。夏の関西では「サマーソニック」(大阪市)、「京都大作戦」(宇治市)、「RUSHBALL」(泉大津市)などの人気が高いそうです。ロックやニューミュージック系のコンサートが主流で「若者の夏の新しい祭りになった」と評価する人もいます。

音楽堂として特異な位置

円山公園音楽堂のような都市公園の中の野外音楽堂・野外ステージは特異な存在と言えます。閉じられた空間でなく、都市公園という屋外空間の中に連続的に配置され、その開放性から人びとの注目を集めやすいという特長があります。しかし一方で、それは音を遮るものがないことを意味し、そこでの演奏やイベントは騒音として周囲に捉えられます。円山公園音楽堂も例外ではありません。その上、円山公園は八坂神社一帯とともに風致地区として京都の代表的景勝地となっており、周辺を民家や社寺が取り囲む閑静な場所に立地しているため、よけい音楽堂として特異な位置にあるわけです。

円山公園音楽堂は、開堂以来広く市民に親しまれてきました。近年では「京の旅人」コンサートが定期的に行われるなど、フォークソングのメッカとも言われています。ただ、周辺環境に配慮して音量の高い催しを制限せざるを得ないという特異な文化施設であることから、近年は稼働率10%台という低い数字となっており、採算の合う催しを積極的に誘致するという方向は必ずしも相応しくないと考えられます。基本的には地域住民に納得される、地域性の高いイベントの開催が望まれるところかと考えられます。

公共空間の音楽活動への活用

2012(平成24)年、「劇場や音楽堂等の文化施設が、地域コミュニティの創造と再生に十分

その機能を発揮していない」という現状認識に基づいて施行された「劇場・音楽堂活性化法」の趣旨に添おうとしても、円山公園音楽堂の活性化方策は簡単ではありません。梅小路公園のような商業的活用が見込まれる施設とは異なり、音楽コンサート等による稼働率を上げるという活性化とは別の方向の活性化方策を講じるべきなのかも知れません。それについては最終章の「提言」で考察します。

この章では、京都において、まちじゅうを音楽があふれる舞台にするというイメージで、個々の「舞台」を構想するとき、まず屋外に立地する野外音楽堂や野外ステージが「主役」になるのではないかという問題意識から、その現状を概観しました。本構想の趣旨からは、京都市内に少なからず存在する広場や公園、神社・仏閣の庭、公共施設のエントランスやホワイエ等、さまざまな公共的空間が良質の音楽イベントや市民の音楽活動にもっと活用されているのではないかと思います。公共空間における音楽のあり方について柔軟な発想が求められます。

京都市の野外音楽堂・野外ステージの概要

施設名 ①設置年(※開園年)/所在地 ②所管部局(指定管理者等)	施設規模等 ◇付帯施設	利用条件 ①時間 ②料金	利用状況 ◇主な音楽イベント
円山公園音楽堂 ①1927/東山区 ②文化市民局 (株式会社アクティブケイ)	・敷地 5,300 m ² ・建築 365 m ² 延床 98 m ² ・ステージ 170 m ² ・客席 3,010 席(固定) ◇楽屋, トイレ ・2011 年度に屋根改修	①9:00～20:30 ②午前・午後・夜間各 土日祝 15,000 円/ 平日 13,000 円 ※有料イベントは別設定	・稼働率 12%(H24 年度) ・来堂者数 7,810 人(同上) ◇フォークコンサート京の旅人
梅小路公園 野外ステージ ①2010/下京区 ②建設局 (京都市都市緑化協会)	・ステージ 308 m ² (22×14 m) ・屋根付き ・下京区制 130 周年記念 事業により整備	①9:00～17:00(内容により ～19:00) ②35,420 円/1 日 1,500 円/1 時間	— ◇京都音楽博覧会, 梅小路ふれあいコンサート
船岡山公園 野外ステージ ①1935※/北区 ②建設局 (北部みどり管理事務所)	・ステージ 幅 9.6m	①規定なし ②無料 ※大音量イベント, 営利目 的での利用は不可	— ◇イベント時のアコースティ ック・ライブなど
森林文化交流センター 屋外ステージ ①1996/左京区 ②産業観光局 (京都市森林文化協会)	・客席 500 人収容可能 ・壁面開放できるホールに 併設	①9:00～17:00 ②午前 2,000(2,500)円/ 午後 2,600(3,400)円/ 夜間 3,400(4,300)円 ※()内は土日祝	・稼働率 10.9%(H24 年度) ・利用者 3,776 人(同上) ※多目的ホール・研修室の 利用状況, 参考値

(資料)各施設及び管理団体, 京都市公式ホームページほか

主要都市の代表的な野外音楽堂・野外ステージの概要

【設置自治体】施設名 ①設置年(※開園年)/所在地 ②所管部局(指定管理者等)	施設規模等 ◇付帯施設	利用条件 ①利用時間 ②利用料金	利用状況 ◇主な音楽イベント
【札幌市】札幌芸術の森 野外ステージ ①1990(2003RN)/ 札幌市南区 ②観光文化局 (札幌市芸術文化財団)	・延床 1,780 ㎡ (2 階建) ・ステージは 200 人規模の 演奏が可能 ・客席 5,000 席(仮設椅子 500 席・芝生 4,500 席) ◇袖舞台, 楽屋, 常設屋根 ※第 1 回 PMF 時にテント張 り仮設建築物として開 設。2003 年全面建替え。	①10:00～21:00 ②46,000 円/1 日 ※有料イベントは別設定 ※音楽は 65db まで	・利用件数 57 件, 利用者数 29,093 人(H25 年度) ・稼働率 33.7% (同上) ◇PMF 野外コンサート, SAPPORO CITY JAZZ ※20 周年を機に市民参加 型イベント公募によるオ フシーズの稼働率の向 上を図る。
【札幌市】大通公園 野外ステージ ①1985/札幌市中央区 ②環境局みどりの推進部 (札幌市公園緑化協会)	— ※ SAPPORO LILAC LIONS CLUB 20 周年記念 で寄贈。	—	・受付件数 17 件 (H21 年度) ◇PMF大通公園コンサート, ライラック音楽祭
【仙台市】勾当台公園 野外音楽堂 ①1968/仙台市青葉区 ②建設局公園課	— ※園内の市民広場にもステ ージ(約 170 ㎡)がある。	①9:00～20:00 ②午前 600 円/ 午後 1,000 円	・利用件数 59 件(H25 年度) ◇定禅寺ストリートジャズフ ェスティバル, ジャズプロ ムナード, 杜の都ふれあ いコンサート
【仙台市】台原森林公園 野外音楽堂 ①1968/仙台市青葉区 ②建設局公園課	・ステージ 約 140 ㎡ ・客席は立ち見で 2,000 人 収容可能	①9:00～17:00 ②午前 600 円/ 午後 1,000 円	— ◇MUSIC PICNIC ※90 年代頃から利用が減 少。2009 年の「5 年間利 用ゼロ」問題化を機に若 手グループがコンサート を企画。
【千葉市】稲毛海浜公園 野外音楽堂 ①1977※/ 千葉市美浜区 ②都市局 公園緑地部 (千葉市みどりの協会)	・敷地 2,870 ㎡ 建築 313.7 ㎡ 延床 159.1 ㎡ ・ステージ 123.4 ㎡, 50 人 規模の演奏が可能 ・客席 椅子 500 席, 芝生約 1,000 人収容可能 ◇控室, 倉庫, 予備室, 調 音調光室, トイレ	①9:00～17:00 ②午前 3,240 円/ 午後 4,320 円/ 1 日 7,560 円	・利用件数 355 件(うち無料 292 件), 利用者数 5,775 人(H25 年度) ・稼働率 27.3% (H24 年度) ◇春・秋のコンサート ※利用促進のため学生や インディーズバンド等の 無料コンサートを実施。
【横浜市】山下公園 石のステージ ①1988/横浜市中区 ②環境創造局	— ※横浜博覧会時に東側地 下駐車場及び上部公園 を整備。	—	— ◇ワールドフェスタ・ヨコハマ
【川崎市】中原平和公園 野外音楽堂 ①1983/川崎市中原区 ②建設緑政局緑政部	・ステージ 幅 16m×高さ 11m×奥行 8m ・客席 790 席	①9:00～20:30 (冬季～17:00) ②7,800 円/回 (4 時間以内)	— ◇中原平和公園コンサート
【名古屋市】鶴舞公園 奏楽堂 ①1910(1997RN)/ 名古屋市昭和区 ②緑政土木局 (名古屋市みどりの協会)	・敷地 3,860 ㎡ ・ステージは対辺間 12.7m の正 8 角形 ・客席は約 500 人収容可能 ※初代施設は室戸台風に より倒壊。再建された 2 代 目の取り壊し後に復元。	①9:00～21:00 ②午前・午後 2,400 円/ 昼間 4,600 円/ 夜間 5,900 円	— ◇吹奏楽フェスティバル

【設置自治体】施設名 ①設置年(※開園年)/所在地 ②所管部局(指定管理者等)	施設規模等 ◇付帯施設	利用条件 ①利用時間 ②利用料金	利用状況 ◇主な音楽イベント
【大阪市】大阪城音楽堂 ①1982/大阪府中央区 ②教育委員会事務局 (2015年度からPMOに運営委託予定)	・敷地 4,018.7 m ² 建築 666.4 m ² 延床 931.7 m ² ・ステージ面積 238.8 m ² (23.4m×11.2m×10.3m) ・3,002名(椅子1,945席, 芝生1,057席) ◇楽屋, リハーサル室, 調音調光室, 各種備品貸出あり ※天王寺音楽堂の閉鎖に伴い開設。敷地は国有地。	①9:30～21:00 ②昼間 20,000 (26,000)円/ 夜間 26,000 (33,000)円/ 全日 42,000 (54,000)円 ※()内は土日祝, 有料イベントは別設定 ※音響装置の使用・音止めは午後8時まで, 音量は芝生席の位置で95デシベルまで。	・利用件数 537件, 観客数 88,249人, 利用率 51.4% (H22年度) cf・舞台 155件, リハ室 326件(H24年度) ◇たそがれコンサート
【北九州市】高炉台公園 野外音楽堂 ①1951※/ 北九州市八幡東区 ②建設局公園緑地部公園管理課	— ※八幡市政40周年で開設された文化交流系地域拠点公園内教養施設。 ※1970代にはロックコンサートが開催されていた。	①9:00～21:00(冬季20:00) ②270円/1時間	—
【福岡市】須崎公園 野外音楽堂 ①1960※/福岡市中央区 ②住宅都市局みどりのまち推進部	— ※市民会館移転に伴い, エンターテイメントエリアとして再整備予定。 ※1960代に多くのミュージシャンが演奏した音楽名所。	①— ②300円/1回(2時間以内)	—

(資料)各施設及び管理団体, 自治体公式ホームページほか

2 京都の合唱活動の歴史

誇るべき合唱活動の歴史

昨年度調査で取り上げることができなかつた京都の合唱活動の歴史を概観します。「音楽文化」と言う時、合唱は最も気軽な「楽器」として音楽を奏でるものであり、音楽文化を構成する大きな要素として欠かすことはできません。古今東西、近代から現代にいたるまで合唱音楽は子どもから大人まで親しまれてきました。日本の中でも特に京都は、他の芸術文化の分野と同様に誇るべき合唱活動の歴史を持っています。

我が国の近代の音楽教育は学制発布による「唱歌」という教科に始まります。戦前の京都にあつては、明治後期の同志社大学におけるグリークラブの創設を先駆けとします。キリスト教系の大学であることから男性コーラスによって宗教合唱曲が歌われていたものと推測されます。昭和期に入ってすぐの京都混声合唱団の創設も京都の合唱史の 1 ページを飾るものです。白樺派、民藝運動の柳宗悦の夫人で、「声楽の神様」とも称された声楽家・柳兼子が 1924(大正 13)年に京都に移住し、いち早く混声合唱団の結成を指導しています。柳は同志社女子専門部、府立第一高女の講師も務めました。

ただ、明治期に西洋音楽とともに「高級」とされた合唱は、このころには楽壇においては傍流となっていたようです。戦争が激化していく中で、「国民皆唱運動」が展開され、音楽家は日本各地に出向いて歌唱指導を行い、人びとは声を合わせて歌いました。しかし、それは「合唱」とも「芸術文化」とも言えるものではなかつたはずで、合唱も一時期不幸な時代を過ごすこととなります。

高度成長期までの音楽文化の歩み

戦後は、いち早く新聞社や放送局が合唱連盟の設立を呼び掛けたり合唱コンクールを開催したりしています。京都では、1948(昭和 23)年に市立堀川高等学校に公立高校として全国初の音楽課程が設置され(現・市立京都堀川音楽高等学校。1997(平成 9)年堀川高校から独立し、日本で唯一の音楽科単独の公立高校となる)、戦後京都の音楽文化の歴史が始まります。戦後まもなく音楽専門の高校を設置したことは、高等女学校を前身とすることから女子のお稽古事としての意味も少なからずあつたと推測されますが、文化・芸術が人間形成に果たす役割や豊かな感性・情操を育む意義、そのための人材育成の必要性について、当時の京都市の教育担当部局が認識していたからに違いありません。

1950 年代には、「もはや戦後ではない」(1956 年『経済白書』)として戦後の復興も終わ

ったとされ、平和な時代の訪れとともに全国的に合唱活動が盛んになります。また、戦争直後に始まった「うたごえ運動」は、政治的メッセージを乗せた社会運動としてこの頃盛んになります。京都にあつては、1952(昭和 27)年市立の音楽短期大学の創設とともに、1956(昭和 31)年 4 月、日本初の自治体直営オーケストラ京都市交響楽団が設立されます。また、1958(昭和 33)年には全国初の公立の京都市少年合唱団が設立されます。音楽短期大学は、堀川高校の音楽専攻科を発展改組する形で創設され、1968(昭和 43)年に市立芸術大学音楽学部の設置により 1971(昭和 46)年に廃止されます。京都市交響楽団は、設立の年の 6 月に先斗町歌舞練場で披露演奏会を、円山公園音楽堂で第 1 回定期演奏会を開催しました。京都市少年合唱団は、当時の京都市長の発案により設立されたそうです。

「文化の大衆化」時代へ

1960 年代の高度成長期が始まると、家庭にはテレビやステレオなどの電化製品が普及し、家庭で気軽に音楽(歌謡)番組や音楽鑑賞を楽しめるようになります。もちろん、テレビ普及前のラジオの時代にあつても歌謡音楽番組は人気がありました。京都では、1963(昭和 38)年に京都府合唱連盟が設立され、翌年には第 1 回京都合唱祭が開催されています。初めから京都会館を会場として、現在では府下の合唱団体によるステージ演奏とともにセミナーやワークショップ等も含まれる一大イベントとして「成長」したことは、岩井公子氏のヒアリング記録にある通りです。音楽短大の芸術大学への移行も 60 年代末のことでした。すでに 1880(明治 13)年に我が国初の京都画学校として誕生し、大学となっていた市立芸術大学に音楽学部として加わり、美術・音楽の総合的な芸術の高等教育機関となったわけです。その後も美術・音楽分野に数多くの芸術家を輩出してきたのは知られているところです。

1970 年代から 80 年代までは、全国各地に音楽ホールもしくは多目的ホールが整備されます。後に「ホールラッシュの時代」とか「箱モノ行政」と揶揄されますが、各地域にまんべんなく「箱モノ」ができた格好になり、とりあえず「文化の大衆化」を保証する装置となります。京都でも府立文化芸術会館やいくつかの地域文化会館などが徐々に整備されてきました。地域住民のアマチュアの合唱やオーケストラほか音楽文化活動の場として定着し活用されている文化会館が多くあります。全国各地の地域音楽ホールや自治体が合唱や器楽のフェスティバルやコンクールを「仕掛けていく」のもこの時代です。芸術文化振興を地域活性化につなげ、併せて地域の情報発信やステータス向上等を企図して実施されました。しかし、それでも前章で触れた「劇場・音楽堂活性化法」ではありませんが、ホール施設を地域住民の文化活動、実演芸術活動にどう活かしていくか、ホール施設の維持管理費に見合うソフト(演しもの)の不足をどうしていくかという根本的な課題は残されています。

合唱関連略年表

年代	年	国内の関連事項(◎日本合唱連盟関連 ○うたごえ運動関連 □出版物) …………… 京都の関連事項(★は別添参照)
	1879	文部省に音楽取調掛設置
	1899	〈関西学院グリークラブ〉創設 (日本初)
	1901	〈慶應義塾ワグネルソサイエティ〉創設
	1904	…………… 〈同志社グリークラブ〉創設
	1911	文部省が通俗教育調査委員会設置
	1920	小松耕輔による欧州音楽事情視察
	1926	…………… 柳宗悦夫人ほか声楽専門家により〈京都混声合唱団〉創設
	1927	〈国民音楽協会〉設立 ◎「第1回合唱競演大音楽祭」開催(～1942年第16回), 〈関西合唱連盟〉設立
	1932	日本音楽教育協会「児童唱歌コンクール」開始 (～現「NHK全国学校音楽コンクール」)
	1938	厚生省設置
1940年代		「厚生音楽運動」, 職場での「国民歌」合唱, 「国民皆唱運動」推進
	1945	(終戦)
	1946	◎朝日新聞社の支援により各地に合唱連盟設立
	1948	○関鑑子により〈中央合唱団〉創設, 全国に「うたごえ運動」広まる ◎〈全日本合唱連盟〉設立(理事長・小松耕輔), 既設の合唱連盟を統合, 第1回「全日本合唱コンクール」開催 …………… 京都市立堀川高等学校に全国初の公立の音楽課程設置
1950年代	1950	○「平和大音楽祭」開催, 各地で「平和」を冠した合唱祭が開催される
	1951	□音楽センター出版『青年歌集』発刊, ロシア民謡や日本の民謡が流行
	1952	〈二期会合唱団〉設立 (1997新国立劇場開館に伴い劇場専属合唱団〈新国立劇場合唱団〉に移行) 〈NHK東京児童合唱団〉設立 …………… 京都市立堀川高等学校音楽専攻科が京都市立音楽短期大学に移行
	1953	…………… 紫明混声合唱団によるシオスタコービッチ『森の歌』日本初演(指揮・桜井武雄) ○全国大会「日本のうたごえ」音楽会開催 (以後, 毎年開催)
	1956	○東京・新宿にうたごえ喫茶開設 □『合唱界』創刊 (～1966年頃廃刊) □文部省『青年合唱曲集』出版 指揮者・田中信昭が中心となり〈東京混声合唱団(東混)〉創設 …………… 自治体直営オーケストラ〈京都市交響楽団〉設立
	1957	…………… 京都市立醒泉小学校がNHK全国唱歌ラジオコンクール(現・全国学校音楽コンクール)優勝
	1958	〈合唱指揮者協会〉設立 (～1961解散) …………… 全国初の公立の少年合唱団〈京都市少年合唱団〉設立
1960年代	1960	…………… □京都会館 開館 …………… 華頂女子高コーラス部がNHK全国唱歌ラジオコンクール優勝 (女声合唱での初優勝)
	1961	第1回文部省芸術祭合唱曲コンクール開催 (1968中止, 文化庁芸術祭ラジオ部門合唱の部として1984まで継続)
	1963	東京音楽社内〈日本合唱指揮者協会〉設立 …………… 第5回現代音楽祭 京都開催 …………… ◎〈京都府合唱連盟〉設立 …………… 指揮者・浅井敬壹により〈京都エコー〉創設
	1964	〈日本音楽協議会〉設立, 〈日本合唱団〉結成 (1965芥川也寸志が会長に就任) …………… 第1回京都市音楽大賞 (～1965中止) …………… ○第1回京都合唱祭 開催 ★1 ○この頃「うたごえ運動」最盛期
	1965	□カワイ楽譜『旬刊合唱新聞』創刊 (～1970『音楽展望』に発展的解消)
	1966	□音楽の友社『合唱サークル』創刊 (～1970廃刊, 一部『音楽の友』に移行)
	1968	…………… 京都市民管弦楽団 結成
	1969	…………… 京都市立音楽短期大学が京都市立芸術大学に移行

年代	年	国内の関連事項(◎日本合唱連盟関連 ○うたごえ運動関連 □出版物) …………… 京都の関連事項(□施設 ★は参考別掲)
1970年代	1970	……………大阪万博でのポリシヨイ・オペラ公演に〈あいりす児童合唱団〉が出演 ……………□京都府立文化芸術会館 開館
	1971	□全日本合唱連盟『ハーモニー』創刊
	1973	大分県民オペラ『吉四六昇天』初演(「ご当地オペラ」の嚆矢), 第1回藤沢市民オペラ公演 大阪フィルハーモニー交響楽団専属アマチュア合唱団〈大阪フィルハーモニー合唱団〉発足 (これ以降, プロ・オーケストラとアマチュア合唱団の組み合わせが全国に広がる)
	1975	○〈日本のうたごえ全国協議会〉設立(規約改定案承認は1963)
	1976	(ユネスコ総会で「大衆の文化生活への参加及び寄与を促進する勧告」採択)
	1978	◎第1回全日本おかあさんコーラス大会 開催
	1980年代	1980
1981		……………第1回藤堂音楽賞(京都混声合唱団が受賞) ……………◎〈京都産業大学グリークラブ〉全日本合唱コンクールで9年連続金賞受賞(～1989)
1982		……………□京都こども文化会館 開館
1984		……………□京都市アバンティホール 開館 (2010 龍谷大学に有償譲渡, 現・龍谷大学アバンティ響都ホール)
		……………□京都市東部文化会館 開館
1988		……………□京都府民ホール・アルティ 開館
1990年代		1990
	1993	……………□京都市西文化会館ウエスティ 開館
	1994	……………(平安建都1200年記念事業)
	1995	……………□京都コンサートホール, 京都市北文化会館 開館 ……………指揮者・井上道義の提唱により〈京響第九合唱団〉発足(1999〈京響市民合唱団〉に改称)
	1996	指揮者・栗山文昭が中心となり第1回 Tokyo Cantat 開催, 〈二十一世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」〉発足 ……………第1回 京都の秋音楽祭 開催
	1997	……………京都市立音楽高等学校が独立(2010～移転, 市立京都堀川音楽高等学校)
	1998	……………□びわ湖ホール開館 ……………〈びわ湖ホール声楽アンサンブル〉発足(日本初の公共ホール専属合唱団)
	2000年代	2001
2002		□東京電化『季刊合唱表現』創刊(～2009 休刊) ……………第1回アルティ声楽アンサンブルフェスティバル 開催
2005		……………◎第7回世界合唱シンポジウム「世界合唱の祭典 京都」開催 ★2 ……………京都コンサートホール10周年記念事業・第19回こどもコーラス・フェスティバル 開催
2008		Tokyo Cantat に「若い指揮者のための合唱指揮コンクール」創設(隔年開催)
2009		……………○京都のうたごえ60周年記念「2009年日本のうたごえ祭典・京都」開催 ★3
2010年代		2012
	2013	◎全日本合唱コンクール大幅改編 (「大学ユース合唱」「室内合唱」「同声合唱」「混声合唱」の4部門に再編) ……………◎第50回京都合唱祭 開催(会場は八幡市文化センター)
	2014	……………第1回エルサレム・ユース・コーラス交流フェスティバル in Kyoto 開催 ★4
	2016	……………□ロームシアター京都 開館予定

(資料) 「日本戦後音楽史」(日本戦後音楽史研究会, 平凡社2007), 「日本の合唱史」(戸ノ下達也ほか, 青弓社2011), 「京都楽壇史点景」(木村和男, 人文書院1996), 各団体・イベント公式ホームページ

《参考》

★1 京都会館合唱祭（1964年～）

- 毎年5月末～6月初旬に京都会館を会場として開催されるフェスティバル。主催は京都府合唱連盟。京都府下の合唱団体によるステージ演奏のほか、セミナー、小アンサンブルコンテスト、ビアパーティー等。おかあさんコーラスの京都支部大会を併催。
- 1964年第1回を本能寺会館で開催。第3回以降京都会館で開催(京都会館建替中は八幡市文化センターでの開催)。第51回(2014)は5/31～6/2の3日間、出演は115団体。入場料810円(3日間通し)。

★2 第7回世界合唱シンポジウム「世界合唱の祭典 京都」(2005年)

- 2005年7/27～8/3の1週間にわたって開催された国際イベント。主催は国際合唱連合、会場はメイン会場の国立京都国際会館(及び京都コンサートホール)ほか市内各地。合唱団34団体、講師30人を招聘、13のシンポジウム・コンサートと41のワークショップ・セミナー、音楽展等を実施。参加者数60カ国・地域3,800人、コンサート入場者数延べ32,000人。
- 世界合唱シンポジウムは、世界の合唱団と合唱指導者が一堂に会し、合唱音楽の芸術性を高めるとともに、世界の合唱人の共同作業と交流を図ることを目的とするイベント。加盟各国の持ち回りにより3年に一度開催、京都はアジア初の開催地。
- コンサートでは各地域を代表する世界トップレベルの34の合唱団が日替わりで出演。全日本合唱連盟主催の「全日本ジュニアコーラス・フェスティバル」「おかあさんコーラス・コンサート」を同時開催。

★3 日本のうたごえ祭典・京都(2009年)

- 京都のうたごえ60周年を記念して2009年10/23～25の3日間にわたって開催された全国大会。会場は京都府立体育館(大音楽会、入場料3,500円)、文化パーク城陽・京都子ども文化会館・京都市呉竹文化センター・京都市右京ふれあい文化会館(合唱発表会、オリジナルコンサート)。大音楽会、合唱発表会、オリジナルコンサートなど。延べ参加者数110,000人。
- 「日本のうたごえ運動」は合唱を主体としたサークル活動を基盤とする音楽運動。全国協議会加盟団体数は約400。都道府県別・産業別・階層別に連絡協議会があり、京都うたごえ協議会は毎年府下13地域での発表・交流会「地域のうたごえ祭典」, 「京都府民音楽会&京都のうたごえフェスタ」を開催。

★4 第1回エルサレム・ユース・コーラス交流フェスティバル in Kyoto (2014年)

- エルサレムの高校生合唱団「YMCAエルサレム・ユース・コーラス」を招聘して2014年8/14に開催されたイベント。主催は京都男声合唱団、会場は京都コンサートホール大ホール(開催募金・一口1,000円)。京都府内のコーラスグループとの合同公演と交流会、ゼスト御池での路上コンサートを実施。エルサレムからの招聘者26人、京都府内の参加者約220人、観客数約1,200人。
- YMCAエルサレム・ユース・コーラスは、ユダヤ系米国人によって2012年に結成されたイスラエル人とパレスチナ人の高校生の混成合唱団。紛争地域の高校生が歌の練習と対話を通じて民族の融和と平和の実現を目指す、音楽を通じた平和活動。国内外で公演ツアーを実施。
- 主宰者の出身団体であるエール大学の男声合唱団「ウィップフェンブーフス」のホストファミリーが中心となって日本招聘プロジェクト実行委員会(代表・宮島将郎)を立ち上げ、一般からの募金により渡航・滞在費を調達。京都公演のほか東京での公演・ワークショップを実施。

90年代以降の京都は、地域文化会館の整備とともに、念願の本格的な音楽施設・京都コンサートホールが開館します。

近年の注目すべき催しとして、岩井公子氏もヒアリングで指摘された、世界60の国・地域から3,800人を集めた国際イベント「世界合唱シンポジウム」(2005年)、そして「日本のうたごえ祭典・京都」(2009年)といった大きなイベントがあります。イスラエルとパレスチナの若者による「YMCAエルサレム・ユース・コーラス」の京都での開催も画期的でした。こうした事業は、もっと光が当たって良いと考えられます。それら音楽文化を通じた「交流」事例は、もう少し詳しく次章の音楽を通じた国際交流等の事業で取り上げます。ここでは、京都の合唱活動が音楽文化都市の一翼を担うものであることを、その輝かしい歴史の中で確認しました。

3 音楽文化の国際交流等への活用

姉妹都市交流で活きる音楽文化

音楽文化が果たす「コミュニケーションの円滑化」という機能を活かし、行政や公的セクターによる国際交流や多文化共生に活かそうとする施策は以前から試みられています。

近年の政令都市の事業例を見ると、姉妹都市交流では音楽に関連した事業が数多く行われています。姉妹都市交流は相手が特定されることから、個々のオーケストラ同士や合唱団同士、また大学・大学サークル、国際交流団体等、市民レベルの個別の交流が主となっています。お互いの定期演奏会やフェスティバルに招聘し合ったり、合同演奏会を開催したりしています。特に「周年記念事業」になると音楽文化は不可欠のようです。いずれも演奏会等で市民に「開かれる」ことが重要で、市民は音楽を通じて「国際交流」の実感を持つことができると考えられます。

姉妹(友好)都市提携に基づく「音楽」関連交流事業
(平成20～24年度実績・政令指定都市)

都市名	提携先	提携年	分類	事業内容(【周年】周年記念事業)	年度
札幌市	ポートランド	1959	文化	ポートランド市民の生活や産業、文化、音楽などを紹介する講座を開催。全4回。講師は、大学教授、小学校教員、在札幌アメリカ総領事館領事	2008
				札幌フィルハーモニー管弦楽団が、オレゴン・プロ・アルテ室内管弦楽団の音楽監督を招いて特別演奏会を開催。ポートランドを訪問し、同管弦楽団と合同演奏会を開催	2009
	ミュンヘン	1972	文化	ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団に付属するブラスバンド「ブレッヒシャーデン」の指揮者ボブ・ロス夫妻を札幌に招聘し、市立札幌開成高等学校吹奏楽部を指導の上、札幌市民向けの演奏会を開催	2009
	瀋陽市	1980	行政	○日中国交正常化40周年を記念し、パンフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)の瀋陽市での公演の際に、訪問団が札幌の魅力をPR ○新千歳―瀋陽間の直行便復活に合わせ、瀋陽市から市民訪問団が来札、市役所庁舎において市内の合唱団との合同合唱公演	2012
千葉市	アスンシオン	1970	文化	○アスンシオン市民族音楽交流団3名を受入	2010
				○パラグアイ共和国独立200周年及び千葉市市制施行90周年を記念し、スペシャルアルバムコンサートを開催	2011
川崎市	富川市	1996	経済	富川市代表団が「アジア知的財産フォーラム」及び「アジア交流音楽祭」に参加	2008
	ザルツブルク	1992	行政	○川崎市長他が現地を訪問し、音楽祭出席、音楽祭関係者と意見交換 ○ザルツブルク市長が来川し、音楽ホールや市内音楽大学を視察	2012
静岡市	南京市	1978	文化	南京市鐘声合唱団受入	2009
	カンヌ市	1991	文化	静岡市に事務局を置く「琉神」がカンヌ市を訪問し、コンサートを開催	2010
浜松市	シエヘリス	1990	教育	親善訪問団の派遣 伝統芸能(太鼓)を披露。中高生7人、太鼓指導者4人	2008
名古屋市	メキシコシティ	1978	文化	メキシコ音楽団一行受入	2008

都市名	提携先	提携年	分類	事業内容（【周年】周年記念事業）	年度
京都市	ケルン	1963	教育	京都市少年合唱団を派遣	2008
	キエフ	1971	文化	京都市から代表団を派遣。京都の文化団体や京都市民による雅楽、合唱、日本舞踊、バレエ、ピアノ演奏、呈茶や写真展示等の文化公演及び東日本大震災復興支援チャリティーコンサートを実施	2011
	ザグレブ	1981	文化	京都市から代表団を派遣。京都の文化団体や京都市民による雅楽、創作舞踊、ピアノ演奏等の文化公演を実施	2011
大阪市	上海市	1974	文化	ミュージシャンを相互派遣し、発表のステージを提供し合う音楽文化交流事業。2回目	2009
	メルボルン市	1978	文化	メルボルン・グラマー・スクール交響楽団が来阪し、相愛大学南港ホールにおいて相愛オーケストラと合同演奏会を実施。	2010
	ミラノ市	1981	文化	○相愛大学生がミラノを訪問し、ミラノ・タルヴェルメ劇場でソロ出演 ○第18回大阪ヨーロッパ映画祭でミラノ市からピアニストを招聘し、無声映画に生演奏を合わせるコンサートを開催 ○相愛オーケストラ第57回定期演奏会「オペラ公演フィガロの結婚」を実施。指揮者及び演奏者をミラノから招聘し、オペラ上演に150名、前日リハーサルに500名の市民を無料招待 ○大阪市役所玄関ホール「イタリア デ・アゴ스티ーニ家地図展」を開催セレモニーで相愛大学弦楽四重奏団が演奏 ○市民親善楽団の派遣	2011
	ハンブルク市	1989	経済	在ハンブルク企業の客船プレーメンが東日本大震災後初めての外国客船として大阪港に来阪。歓迎式典で大阪府立清水谷高校合唱部が歓迎の歌を披露	2011
神戸市	リガ	1974	文化	神戸市混声合唱団の秋の定期演奏会出演	2011
	ブリスベン	1985	文化	学生オーケストラ(45人)の交流・受入	2009
岡山市	グアム準州	2010	文化	グアムのミュージシャンが「おかやま国際音楽祭」に出演。グアム伝統のチャモロ音楽を披露	2011
	洛陽市	1981	文化/ 他	○洛陽市の音楽家がおかやま国際音楽祭に出演。中国の伝統音楽を演奏 ○洛陽市から訪問団を受入。教育団が津島小学校と音楽交流	2011
	新竹市	2003	文化	○新竹市訪問団受入(おかやま国際音楽祭参加) ○新竹青年国楽団と岡山交響楽団が岡山市民会館で交歓演奏会	2008 2011
	プロブディフ市	1972	文化	岡山少年少女合唱団ブルガリア・トルコ親善公演事業 プロブディフ市出身チェリストによるチェロリサイタル	2009 2010
	富川市	2002	文化	○呉恩領舞踊団来岡(おかやま国際音楽祭参加) ○岡山市・富川市友好交流協定締結10周年記念で、富川市の民族芸術団が「おかやま国際音楽祭」へ出演	2008 2012
	サンノゼ市	1957	教育	サンクララ交響楽団受入	2008
	広島市	ホノルル	1959	文化	フラダンスやハワイアンバンド、ホレホレ節の歌手等をホノルル市芸術団として受け入れ、記念コンサート等を開催
北九州市	大邱広域市	1997	文化	大邱国際オペラフェスティバルから招待を受け、広島市の声楽家が参加	2009
	ノーフォーク	1959	文化	ボイス・オブ・バージニア公演	2009
福岡市	大連市	1979	文化	北九州童謡・唱歌かたりべの会 大連訪問公演	2012
	ボルドー	1982	文化	○ミュージックシティ天神へのボルドーのミュージシャン出演を通じて、姉妹都市交流に対する若者の関心や参加を促進 ○ボルドー出身の音楽・映像デュオ公演を通じて文化・創造産業における交流・協力を推進 ○アキテーヌ管弦楽団による演奏会の開催	2012 2008

(注) 事業内容に音楽に関する記述(音楽、合唱、吹奏、演奏、楽団、コンサート等)が含まれるもの。ただし、バレエ・舞踊、民俗芸能(よさこい踊り等)、芸能団(ジャンル不特定)、及び内容不明の催事は含まない。仙台市、さいたま市、横浜市、相模原市、新潟市、堺市、熊本市は該当なし。

(資料) 自治体国際化協会「姉妹(友好)都市提携に基づく交流事業・調査結果」

政令都市が行っている事業の中で、注目すべき音楽を通じた都市間交流事例を 3 件挙げました。姉妹・友好都市提携に基づく交流事業です。

政令指定都市による「音楽」を中心とする都市間交流事例

都市名	交流事業の概要	
川崎市	音楽文化を中心とした友好都市交流	
	ザルツブルグ市(1992)	1991 年の洗足学園のモーツァルトコンサートでの両市長の会談をきっかけに、世界的「音楽の都」ザルツブルク市と、ハイテク工業都市川崎市との間の新しいタイプの文化交流を目指し、音楽をはじめとした文化・芸術分野で友好都市提携
<p>【主な交流内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市からの市民合唱団や市民交流団のザルツブルグ市訪問 ザルツブルグ市からの市民合唱団や青少年友好親善団の川崎市訪問などの人材交流 洗足学園前田ホールでのコンサートの開催 など <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ミュゼ川崎シンフォニーホールの開演ベルにザルツブルク大聖堂の鐘の音を使用。JR川崎駅とミュゼを結ぶデッキに「ザルツブルクの鐘」、ホール内にザルツブルク市コーナーを設置 東日本大震災からのホール復旧費用としてザルツブルク市と音楽祭から 20 万ユーロを寄付(2011) ザルツブルク音楽祭の日本でのプレス発表会、昭和音大や洗足学園音大の学生の音楽祭への派遣(2013)、ザルツブルク音楽祭のパブリックビューイングの実施(2013 プレ事業, 2014～予定) 等 		
浜松市	音楽・文化友好交流協定締結による音楽文化の振興に資する交流	
	ワルシャワ市(1990)	浜松国際ピアノコンクール開催を機に締結
	ロチェスター市(1996) ※2006～姉妹都市に移行	全米屈指の音楽学校・イーストマン音楽院の校長が浜松市を訪れた際に音楽を通じた交流を市長に提案(1994)、それを受けて音楽・文化友好交流協定を締結
	ボローニャ市(2014)	ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野への加盟を視野に、同ネットワーク加盟都市との音楽を通じた交流と専門人材の育成、音楽都市としての認知度向上を目指して締結
<p>【主な交流内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱団やオーケストラの派遣 など <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧・浜松市が姉妹都市協定を行わない方針であったため、それに代わる都市間交流協定としてワルシャワ、ロチェスターの 2 都市と音楽・文化友好交流協定を締結。うちロチェスター市とはその後教育や行政分野などに交流内容が拡大したため、10 周年を機に姉妹都市協定を締結(2006) ショパン像レプリカをアクティシティ屋上公園内の「ショパンの丘」に設置(1994)、「ジュニアオーケストラ浜松」がロチェスター市を訪問(2005)、「ジュニアクワイア浜松」がワルシャワ市を訪問(2010)、ショパン国際ピアノコンクール優勝者に「浜松賞」を贈呈(2010) 「浜松世界青少年音楽祭 2014」にワルシャワ市とボローニャ市の児童合唱団が参加予定 ※国内では札幌市との間で「音楽文化都市交流宣言」(2009)に基づく交流事業を実施 ※「音楽を通じた文化的多様性に関する国際会議」(2015)、「世界民族音楽の祭典 in 浜松」(2016)開催予定 		
神戸市	神戸市混声合唱団・リガ室内合唱団アヴェ・ソルの姉妹合唱団提携	
	リガ市(1974) ※1991 年にラトビア共和国独立に伴い再調印	国際港湾都市間の姉妹都市提携
<p>【主な交流内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸市混声合唱団のラトビア合唱祭(5 年ごとに開催)への出演、リガ室内合唱団アヴェ・ソルとの合同演奏会、アヴェ・ソル指揮者の招聘 など 35 周年を機に神戸市混声合唱団とアヴェ・ソル合唱団が姉妹合唱団提携(2010) <p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> リガのラトビア合唱祭「歌と踊りの祭典」はユネスコの世界無形遺産に選定(2003) 「神戸市混声合唱団国際文化交流事業」の一環 ※リガからはアヴェ・ソル以外の音楽使節団も来神・公演を行っている 		

(資料) 各市国際交流担当部局ホームページ

川崎市は、1992(平成4)年から世界的な「音楽の都」オーストリア・ザルツブルクを友好都市として提携しており、その資産を活用しながら新しいタイプの文化交流を目指し、音楽を始めとした文化芸術分野の都市間交流を継続しています。市民合唱団同士の行き来や青少年交流、学生音楽祭、洗足学園でのコンサートなどを実施しています。ザルツブルク音楽祭の川崎でのプレス発表やパブリックビューイングなどは、ザルツブルクの知名度向上とともにザルツブルクへの日本人観光客誘致にも一役買うユニークな催しと言えます。

また、浜松市は、昨年度の調査報告書にも「音楽文化をまちづくりに活用した事例」の1つとして取り上げました。市制70周年を機に、楽器ほかのものづくりの町から音楽文化の町に転換することを総合計画に掲げ、「音楽の都」を目指す浜松市です。ワルシャワ(ポーランド)、ロチェスター(アメリカ)、ボローニャ(イタリア)の各都市と音楽・文化友好交流協定を締結し、合唱団やオーケストラによる交流など、音楽を契機とした都市交流事業を展開しています。ワルシャワで5年に1度行われる世界的なピアノコンクール、ショパン国際ピアノコンクールの優勝者に「浜松賞」を贈呈するなどはきわめて面白い試みです。浜松市は、2014(平成26)年12月にユネスコ創造都市ネットワークに音楽分野での加盟を果たし、都市間ネットワークを通じて都市のポテンシャルを発揮させようと目論むとともに、各姉妹都市とも音楽文化を通じた交流を積極的に展開しています。

神戸市は、ラトビア・リガ市とお互い国際港湾都市として姉妹都市提携を結ぶとともに、神戸市混声合唱団とリガ室内合唱団とは姉妹合唱団という提携を結んでいます。神戸市混声合唱団がリガのラトビア合唱祭「歌と踊りの祭典」に出演したり、合同演奏会を開催するといった合唱を通じた交流を行っています。「歌と踊りの祭典」はユネスコ世界無形文化遺産に選定されており、神戸市としてはきわめて価値のある音楽交流を続けることができると言えます。

姉妹都市のイベントからヒント

京都市の姉妹都市交流にあっても、友好関係を深めるにあたり音楽を通じた交流事業は活発です。パリやボストン、ケルン、フィレンツェ各市とはもう50年の「おつき合い」ですが、京都市の姉妹都市はすべて豊富な音楽文化資源を持つ都市で、資源自体がすべて定評のあるものばかりです。音楽に限らず、美術や舞台芸術も含めてさまざまな芸術文化の華開く都市です。

京都市の姉妹都市との「音楽」関連交流状況

提携先 (提携年)	〈参考〉提携先の音楽関連資源例 ◇教育機関 ○楽団 ◎イベント □施設 ※京都市ホームページでの紹介文	音楽に関する姉妹都市交流事業
パリ市 (1958)	◇パリ国立高等音楽院, エコール・ノルマル音楽院 ○パリ交響楽団, パリ室内管弦楽団 ◎夏至の日の音楽祭, 白夜祭 ◎パリ市主催国際コンクール □オペラ座, シャンゼリゼ劇場, パリ市立劇場 □ラ・ヴィレット音楽都市(音楽博物館)	2011年(平成23年)10月 *パリで開催される「ニューイ・ブランシュ(白夜祭)」に合わせて、「ニューイ・ブランシュ KYOTO」を京都市内各地で開催(音楽の演奏, サブウェイパフォーマンス等)
ボストン市 (1959)	◇バークリー音楽大学, ボストン音楽院 ○ボストン交響楽団, ポップス・オーケストラ □ボストン・シンフォニーホール ※絵画・音楽をはじめとする現代芸術の拠点	2009年(平成21年)10月 *京都駅ビルにおいて「ボストンの夕べ」を開催 2009年(平成21年)9月 *京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)において「第27回アスニーコンサート」を開催 *京都駅ビルにおいて「国際姉妹都市祭 in 京都駅ビル2009」を開催。ジャズコンサート等を実施(~10月) 2008年(平成20年)11月 *「京都創生海外発信プロジェクト」として、ボストン市において雅楽公演会 1999年(平成11年)7月 *姉妹都市提携40周年記念公演「藤蔭静枝&竹中真」を京都市国際交流会館で開催
ケルン市 (1963)	◇ケルン音楽大学 ○ケルン WDR 放送交響楽団 ◎ケルン現代音楽祭 ◎ケルン国際音楽コンクール □ケルン・フィルハーモニーホール, オペラハウス・市立劇場 □ケルン電子音楽スタジオ(閉鎖)	2013年(平成25年)5月 *姉妹都市提携50周年記念事業として、ケルンアカデミーオーケストラ公演、「ケルンの夕べ」等を実施(~6月) 2009年(平成21年)10月 *天理河原町雅楽会が市長の親書を携えてケルン市を訪問し、同市の音楽祭典で雅楽の演奏会を行う。 2008年(平成20年)8月 *京都市少年合唱団がドイツ・エッセン市のシュテューラー児童合唱団に招待されてドイツを訪問、ケルン大聖堂で歌声を披露 2007年(平成19年)2月 *ケルン出身「シェール・シック・ブラス・バンド」が来日、京都市国際交流会館で開催されたローマ条約締結50周年記念「ユーロパーティー」において演奏
フィレンツェ市 (1965)	◇フィレンツェ音楽院 ○トスカーナオーケストラ ◎フィレンツェ五月音楽祭 □フィレンツェ市立歌劇場, ベルディ劇場	2010年(平成22年)3月 *同志社交響楽団が、ヴェッキオ宮殿500人広間にて演奏会を開催 2008年(平成20年)11月 *京都フィレンツェ友好協会が、フィレンツェをはじめとするイタリア各地で、「いちひめ雅楽会イタリア巡回公演」を実施 2008年(平成20年)10月 *京都フィレンツェ友好協会が、フィレンツェ出身姉妹ヴァイオリン・ピアノデュオの「サロン・コンサート」を開催 2005年(平成17年)6月 *京都・フィレンツェ姉妹都市提携40周年記念事業として本市代表団がフィレンツェ市を訪問。伝統的祝祭行事の聖ヨハネ祭参列。茶道・日本舞踊・雅楽を紹介する文化交流の集い出席 1995年(平成7年)10月 *京都コンサートホール・オープニング記念として、フィレンツェ・オーケストラ・ヴェルディアーナが公演 1995年(平成7年)10月 *京都・フィレンツェ姉妹都市提携30周年記念として、京都市代表団が訪問、文化使節団による日本の伝統文化を紹介(箏曲など)

提携先 (提携年)	〈参考〉提携先の音楽関連資源例 ◇教育機関 ○楽団 ◎イベント □施設 ※京都市ホームページでの紹介文	音楽に関する姉妹都市交流事業
キエフ市 (1971)	◇キエフ音楽院 ○キエフ国立フィル交響楽団 □キエフ国立歌劇場 ※バレエ、音楽など芸術の都	2011年(平成23年)9月 *提携40周年を記念し、京都市から代表団を派遣、京都キエフ友好合唱団、雅楽等の記念文化公演を開催 2001年(平成13年)9月 *提携30周年を記念し、キエフ市から代表団とウクライナ民族音楽団が京都を訪問、ウクライナ民族音楽団と京都市民による合同コンサートを開催
西安市 (1974)	◇西安音楽学院	2014年5月 *京都・西安友好都市提携40周年記念事業「西安の夕べ」の開催(国際姉妹都市祭 in 京都駅ビル「中国音楽祭」等) 2004年(平成16年)7月 *友好都市提携30周年を記念し、西安青少年友好交流訪日団が入洛、京都市少年合唱団と交流会を開催
グアダラハラ市 (1980)	◎国際マリアッチ音楽祭 ※マリアッチ音楽発祥の地	2010年(平成22年)9月 *新風館にて「Kyoto-Mexico Hermanas2010」開催 *同志社大学寒梅館にてマリアッチ・アガベ演奏会開催 *京都駅ビルにて提携30周年記念「グアダラハラの夕べ」を開催。下京中学校吹奏学部によるラテン音楽の演奏や、マリアッチ・グループによる演奏等を実施 2010年(平成22年)8月 *京都市国際交流会館にて、京都メキシコ文化協会等が「メキシコ・フェスティバル京都」を開催 *両市において音楽や踊り等の記念公演を開催 2000年(平成12年)10月 *提携20周年を記念して文化使節団をグアダラハラ市へ派遣、竹太鼓とマリアッチ、書道等の公演をデゴヤード劇場で開催 2000年(平成12年)9月 *京都駅ビルで提携20周年記念「マリアッチ京都公演」を開催
ザグレブ市 (1981)	◇ザグレブ音楽アカデミー ○ザグレブ交響楽団、ザグレブ・カルテット ◎ザグレブオーケストラ祭、サマーフェスティバル、国際フォークロアフェスティバル、INミュージックフェスティバル □リジンスキー コンサート ホール	2011年(平成23年)8月、9月 *京都・ザグレブ姉妹都市提携30周年を記念し、音楽や踊り等の記念公演を開催 2008年(平成20年)10月 *京都ザグレブ交流会主催コンサート「日本・クロアチア・オーストリア歌曲の競演」を京都市国際交流会館で開催 2002年6月 *京都ザグレブ姉妹都市提携20周年記念事業「京都デイ」オープニング及びコンサート 2001年(平成13年)3月 *京都市国際交流会館で「クロアチア・ザグレブの夕べ」開催(コントラバス奏者ゴンスキー氏の演奏会・講演 等) 1997年(平成9年)5月 *京都市交響楽団創立40周年記念事業であるヨーロッパ公演の一環として、ザグレブ市で公演。京都市及び京響ヨーロッパ公演実行委員会からザグレブ市へ楽器を贈呈
プラハ市 (1996)	◇プラハ音楽院 ○プラハ交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 ◎プラハの春/秋音楽祭、国際音楽コンクール □スメタナ・ホール、ドヴォルザーク・ホール、エステート劇場 ※スメタナやドボルザークが活躍した音楽の街	2010年(平成22年)1月 *京都コンサートホールでプラハ交響楽団ニューイヤー名曲コンサートを開催 2005年(平成17年)5月 *プラハ市長パベル・ベーム氏が入洛、京都市交響楽団とプラハ交響楽団が姉妹オーケストラ盟約を締結。京都コンサートホール10周年記念「京都・プラハ姉妹都市友好のコンサート」

(資料)京都市国際課推進室ホームページ、各都市(国)公式観光案内サイトほか

特にパリは、毎年10月の夜にパリで開催されている「ニューイ・ブランシュ(白夜祭)」の開催に合わせて、京都でも「ニューイ・ブランシュ KYOTO」を2011(平成23)年10月から市内各地で開催しています。「ニューイ・ブランシュ(白夜祭)」は、現代アートの展示、コンサート、文化イベントなどまちじゅうを使ってオールナイトで行う祭典で、2002(平成14)年パリ市長の提案で始まりました。パリ市庁舎も市民に開放されるそうです。京都の「ニューイ・ブランシュ KYOTO」も音楽だけでなく美術・ダンス・演劇・伝統芸能等、すべてのジャンルにまたがる現代アートの祭典です。京都はパリからヒントをもらったこととなります。パリは京都にとって、音楽だけでなく美術や伝統芸能など、芸術文化個々の分野それぞれで縁の深い都市となっています。

パリほかボストン、ケルン、フィレンツェ、キエフなどの姉妹都市は、名だたる音楽の高等教育機関や交響楽団、立派なシンフォニーホール、音楽祭等を備えた「音楽文化都市」で、クラシックだけでなくジャズやポップスも、近年京都とは活発な交流を重ねています。京都から招聘されるのは合唱や雅楽が多くなっています。

また、プラハには、毎年春に開催される管弦楽や室内楽のための国際音楽祭「プラハの春・音楽祭」があります。チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の創設50周年にあたる1946年に第1回の音楽祭が開催されました。チェコ・フィルがホスト役を務め、世界から著名な演奏家やオーケストラが招かれて市内の教会や庭園を会場に演奏会が開かれます。3週間続きます。京都の「京都の秋・音楽祭」はこの「プラハの春・音楽祭」にならって開催されるようになりました。「京都の秋・音楽祭」は京都コンサートホールの中心的事業となっており、「京都が世界に誇る文化芸術都市であることを国内外にアピール」しています。姉妹都市提携を結んですぐに開催され、2014年で18回目を迎えました。2014年の「京都の秋・音楽祭」は、国内外の一流オーケストラを招聘して約2カ月半にわたり全23公演が行われています。

音楽を通じた国際交流・多文化共生

京都市では、姉妹都市交流以外にも、大掛かりな音楽祭を始めさまざまな音楽文化事業が実施されています。始めに姉妹都市という枠組みがあるのとは逆に、音楽が国際交流や多文化共生というテーマの、いわば柔和剤となったものがあります。ここではいくつか限られたものを取り上げましたが、大学生や子どもなど若い層を主たる対象とした音楽イベントもあり、今後も見守り続けていきたいと思えます。

「関西留学生音楽祭」は1989(平成元)年に京都で「京都留学生音楽祭」として始まった音楽祭で、関西で学ぶ世界各国の留学生が主役の、それぞれの伝統音楽や舞踊の紹介等を

通じて交流を深めるものです。2009(平成)年からは「関西留学生音楽祭」として京都と大阪で各年開催になりました。「京都・国際音楽学生フェスティバル」は国際交流と若手音楽家の育成を目的とする、民間企業のバックアップによる珍しい事例です。また、「右京ワールドミュージックフェスタ」は、民族音楽を中心にワークショップや展示も行う総合的な交流事業で、区民、特に子どもを巻き込んだ事業である。右京文化会館の自主事業として継続が期待されています。

内なる国際化、多文化共生を進める試みとして「東九条マダン」が注目されます。1993(平成 5)年京都市最大の在日コリアンの集住地域・東九条で、在日コリアンと日本人が 1 つのマダン(広場)に集い、みんなの祭を実現したいという思いで始められました。朝鮮の伝統楽器の演奏や、和太鼓とサムルノリ(伝統的な「農楽」を元にした打楽器による現代音楽)の演奏、マダン劇等が中心的パフォーマンスになります。2014(平成 26)年で 22 回を数え、恒例行事として多くの参加者を集めています。第 4 回からは京都市・京都市教育委員会が後援しています。民族音楽を通じ、一貫して多民族間の協働が模索され実践されてきた、特筆すべき試みと評価できます。

京都市で開催されている主な「国際交流」関連音楽イベントの概要

名 称	イベント内容・開催経緯 等	開催実績
関西留学生音楽祭 in KYOTO	<p>音楽文化の交流を通じて留学生と日本の学生や市民との相互理解と友好を深めることを目的とする音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関西で学ぶ世界各国の留学生による伝統音楽や舞踊, 出演者は公募により審査。入場無料 ● 1989年に京都で第1回, 以降毎年秋(11月中～下旬)に開催。2009年からは京都・大阪で隔年開催 ● 2010年までは京都市音楽芸術文化振興財団, 京都新聞社との共催。京都府・市ほか後援 	<p>【開催日程】 (第23回)2014年11月16日(日)</p> <p>【主催】(一財)民主音楽協会関西センター</p> <p>【会場】京都コンサートホール</p> <p>【参加者数等】</p> <p>◇第1～22回累計2,647名</p> <p>◇(第22回)2012年11月17日(土) 19ステージプログラム 参加者23カ国・地域23校, 学生101名, 観客1,000名</p>
京都・国際音楽学生 フェスティバル	<p>「音楽」を通じた国際交流と若手音楽家の育成を目的とするコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の代表的な音楽学校からの選抜学生による演奏会。参加各国及び混成メンバーによるピアノ, 弦楽器, 管楽器, 声楽等の演奏。入場料は5日間通し3,000円 ● 1993年に第1回, 以降毎年春(5月下旬)に開催 ● ローム株式会社の社会貢献活動である音楽文化支援事業の一環(2013年事業費9,564万円) 	<p>【開催日程】 (第22回)2014年5月24日(土)～ 28日(水)<5日間></p> <p>【主催】(公財)ロームミュージックファンデーション</p> <p>【会場】京都府立府民ホール アルティ</p> <p>【参加者数等】</p> <p>◇第1～22回累計2,486名</p> <p>◇2014年(第22回)22校104名 海外9校19名・国内13校85名</p>
右京ワールド ミュージックフェスタ	<p>世界の民族音楽を通じて, 子どもたちに世界への関心や理解を深めてもらうことを目的とするイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ライブステージやワークショップ, 展示, フードショップなど。事前に区内小学校・児童館での民族楽器の製作やミニコンサート等のアウトリーチ活動を行う ● 2011年に1回(8月・4日間), 2回目以降は3月末に開催 ● 「京都の秋 音楽祭」の15周年記念事業(京都国際音楽祭)として開催後, 右京文化会館の自主事業として継続 	<p>【開催日程】 (第3回)2014年3月30日(日)</p> <p>【主催】(公財)京都市音楽芸術文化振興財団, 京都市</p> <p>【会場】右京ふれあい文化会館</p> <p>【参加者数等】</p> <p>◇2013年(第2回)延210名</p>
東九条マダン	<p>多文化・多民族共生社会の実現を目指す, 在日コリアン文化を中心とした東九条地域の文化祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 和太鼓とサムルノリの演奏, マダン劇, 歌と踊り, 朝鮮相撲の大会など。入場無料 ● 韓国・朝鮮人, 日本人をはじめあらゆる民族の主体的な参加を開催趣旨に掲げており, 国籍や地域等の制約はない。毎年夏頃に楽器等の練習を開始 ● 1993年に第1回, 以降毎年秋(11月上旬)に開催 ● 運営は地域住民主体のボランティア・寄附による。第4回から京都市と教育委員会が後援(京都市人権啓発活動補助金・補助事業) 	<p>【開催日程】 (第22回)2014年11月2日(日)</p> <p>【主催】東九条マダン実行委員会</p> <p>【会場】地域の4小中学校を巡回</p> <p>【参加者数等】</p> <p>◇2013年(第21回)5,000名以上</p>

(資料)各イベント・主催者公式サイトほか

4 多様な「音楽コミュニティ」創出に向けての提言

昨年度「1st Stage」の報告書では、京都の音楽文化振興のための、以下 6 つの提言を行いました。

- ◎ 美術館等文化施設と音楽の融合
- ◎ 「音楽コミュニティ」創造のための支援
- ◎ 「六感」で感じる観光の推進
- ◎ 音楽が流れる商店街の創出
- ◎ 「京都音楽大使」制度の新設
- ◎ 公共空間における音楽アセスメントの積極導入

今年度は、昨年度の提言をバージョンアップしたのも含まれますが、さらに 7 つの提言を加えます。

基本的な考え方——京都が「音楽の舞台」

今後の日本社会は、さらなる長寿化社会の進展や安心・安全の重視、女性や若者の活力の活用といった社会的課題の解決が求められるようになります。そうした中で音楽の果たす本質的な役割を考えたとき、音楽を「人と人をつなぐメディア」という視点で捉えたいと思います。市民と市民の間、世代間、学校や地域社会の相互の関係など、さまざまな社会的主体の間のコミュニケーションを円滑にする音楽、という意味です。

京都が「音楽の舞台」になるということです。音楽ホールはもちろん、文化施設や公園、街角といった都市施設をすべて「舞台」にして、全国の音楽愛好者が集って共に演奏し共に歌い、そして交流するのです。そういうハード面の供用だけでなく、空間的にもネットワーク的にも、全国全世界のさまざまな「音楽コミュニティ」を振興し支援するといったソフト面も整備します。これはひょっとしたら、お金をかけてハード施設を整備するより難しいことかも知れません。そのためには、そうした施策・事業の主体となるNPO等何らかの組織を立ち上げる必要があります。

提 言

◎ 京都市音楽文化振興条例の制定

京都市が世界の音楽文化のセンター「音楽文化都市」となるために、「京都市音楽文化振興条例」を制定します。現在、京都市には、国の基本法に基づいて2006(平成18)年に施行された「京都文化芸術都市創生条例」があります。「優れた京都の文化芸術を通じて市民生活やまちづくりの取組を活性化し…京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生すること」が条例の趣旨です。京都の音楽文化のこれまでの蓄積を考えますと、将来「音楽文化都市」として京都という「文化芸術都市」を構成する重要な芸術分野であることは疑いありません。そのためには音楽文化がまちの活性化に資するさまざまな動きを担保していくための条例が必要です。現行の「京都文化芸術都市創生条例」を京都の文化芸術全般を振興していく「基本条例」とし、その下に「音楽文化振興条例」を位置づけることを提案します。

◎ 音楽文化5%システム

京都で、新しい公共施設の落成式典や企画展等のオープニング行事、周年記念行事等の公的イベントを実施する際に、実施予算の5%を音楽文化に割り当てることを義務付けるシステムを整備します。1970年代の我が国の文化行政の黎明期に施設整備費の1%を文化的なものの整備に割り当てる「文化の1%システム」がありましたが、これはそのシステムになったものです。「音楽文化都市」を標榜する限り、音楽鑑賞の機会を少しでも増やし、音楽の「消費」を高めなければなりません。実施予算の多寡に応じてフルオーケストラにするか、セミプロのバンドか、あるいはアマチュアの文化ボランティアの演奏家かを主催者が決めます。洋楽でも邦楽でもすべての音楽ジャンルを対象にしますが、商業ベースに乗っていないものが望ましいと考えられます。これは公的イベントを音楽の導入によって華やいだもの、厳かなものするという意味のあることはもちろんですが、音楽文化を普及するとともに、音楽に携わる人たちを支援するためです。

◎ 「京都・音楽パサージュ」の創出

京都の春や秋の過ごしやすい季節に1週間程度、都心部を中心にさまざまな場所に弦楽・器楽・合唱等による多様な「音楽パサージュ(遊歩道・緑陰道・モール)」を創出します。音楽ホールはもちろん公園や広場、商店街、住宅街など、場所の性質に応じて最も効果的

な音楽が奏でられます。住宅地では住民たちが話し合っ場所や音楽ジャンルを決めます。ヨーロッパの音楽都市の都心部では、街角で音楽家の卵のような若者が演奏していて、どこからともなく音楽が聴こえてくることがあります。ピアノを聴きながら歩いていくと、次にバイオリンの音が徐々に聴こえてくる、そしてまた次の音色が聴こえてくる、そんな音楽パサージュが連なるというイメージです。秋であれば、現在ある「京都の秋・音楽祭」等と連動させる方法もあります。場所によっては簡易のテントを張れば、陽射しや雨風を遮ることができます。創出にあたっては、法的な整備も必要になりますし、今後さらにイメージを具体化していきたいと思います。昨年度提案した「音楽コミュニティ」の発想を元に、吉田眞澄氏に豊富化していただいた「音楽プロムナード」構想のご提案を活用させていただきました。

◎ 円山公園音楽堂の再構築

円山公園は1886(明治19)年に開設された京都市最古の公園で、一般には京都随一の桜の名所として知られています。回遊式日本庭園を中心に料亭や茶店が散在し、四季を問わず風情のある観光スポットです。その中で音楽堂は、前述の「音楽パサージュ」を構成する1つのスポットになります。一方で音楽堂は、近年京都文化祭典の一環として「京の旅人」フォークコンサートが開かれています。これまで多くのフォークやカントリーのアーティストを支えてきた「メッカ」としても知られています。「京の旅人」にはアマチュアバンドも出ることができます。趣旨には「京都ならではの文化イベントを展開し…国内外に京都の文化力を発信」とあります。こうした実演による「文化力」の発信もありますが、現在の法的な規制を考えて、これまで音楽堂が音楽文化に果たしてきた功績を「顕彰」する文化遺産として保存し、「文化力」を静かに発信する方法もあります。現在、円山公園は池大雅や竹久夢二など画家の足跡をたどる周遊ルートが設定されていますが、音楽堂は、円山公園の中のスポットとしてだけでなく、京都の音楽文化の周遊スポットとして「音の出る顕彰モニュメント」等を設置することが望ましいと考えられます。2014(平成26)年度から円山公園の保存管理計画の策定が進められていますが、こうした方向による円山公園音楽堂の「再構築」が期待されます。

◎ 「感覚環境」のまちづくり

京都市景観条例によるまちづくりは、内外の評価の高い景観政策事例となっています。しかし、まちの視覚的な景観だけでなく環境全体を考えたとき、聴覚的なまちの「音」という要素も環境・空間の「質」を大きく左右します。京都のまちの「質的な進化」のため

に、景観という目に見えるものからもっと広げて、耳に聞こえる「音」を含めた「感覚環境」を考えるプロジェクトを展開します。まちの見かけ(景観)は整っていても、騒音、雑音、不快な音は、意外に京都のまちにもあふれています。その前段として市内各地域のいい音・悪い音を含めた「京都の音」を発見し、保存・活用・除去を考えるプロジェクトを展開することも一考に値します。地域コミュニティ再生の契機ともなるはずです。すでに浜松市は「音・かおり・光環境創造条例」を制定しています。このプロジェクトは、将来京都の「感覚環境創造条例」までつなげられればよいと考えます。なお、この構想は小松正史氏のアイデアを援用させていただきました。

◎ 京都「残したい音 100 選」

環境庁「日本の音 100 選」という「残したい音」の選定があります。そこに入っているのは京都市内では嵯峨の竹林のみですが、京都にはもっと後世に残したい音があるはずです。最近は聞くことができなくなった音、でも心地よく残したい音、新しくてもずっと残ればよいと思う音…。残したいと思う音は、たいてい消えゆく音であることが多いのかも知れません。竹林を吹き抜ける風の音や川のせせらぎなどの自然の音、お寺の鐘や祭の囃子や鳴り物、掛け声、もの売りの声や繁華街のにぎわいなど、後世に「残したい」さまざまな音を 100、市民の投票によって決めます。「京都の発見プロジェクト」に連動するこのプロジェクトは、京都市民のアイデンティティの醸成の契機となります。そして、「音」を残すための方策や「音」のアーカイブづくりなどを市民みんなで考えます。これも小松氏のアイデアをいただきました。

◎ 関西広域音楽文化ネットワークの構築

2010(平成 22)年より関西 2 府 5 県 4 政令市が結集し、全国初の取組みとして関西広域連合がスタートしています。地方自治体による分権改革の試みですが、当面、防災を初め観光・文化振興、産業振興等 7 分野から広域自治体が共同で取組むことになっています。この仕組みを活かし、音楽文化でも関西全体の強みを増すことができると考えられます。関西の府県、政令市はそれぞれが個性的な音楽文化資源を持っています。2021(平成 33)年の関西ワールドマスターズゲームズのように、「関西音楽祭」(仮称)といった大規模な音楽イベントの開催はもとより、音楽文化施設のネットワーク化、音楽イベントの共同開催等を通じて、ソフト(イベント)の巡回等により広域観光の振興に貢献するとともに、音楽文化に関わる人事や技術の交流を通じたお互いの研鑽に資するものとしします。